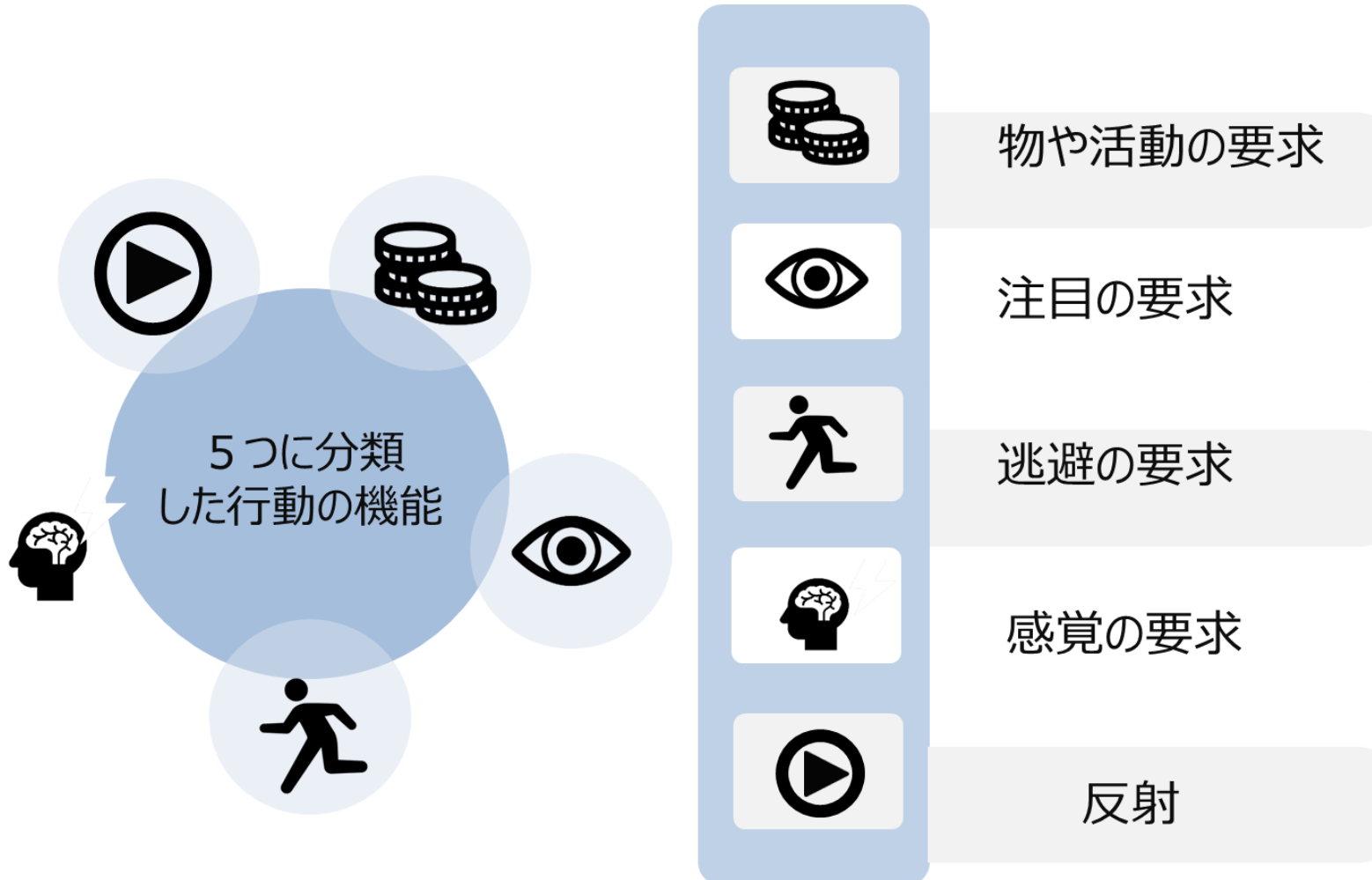


手順4. 行動の機能を推定する

5つに分類した行動の機能



行動記録用紙

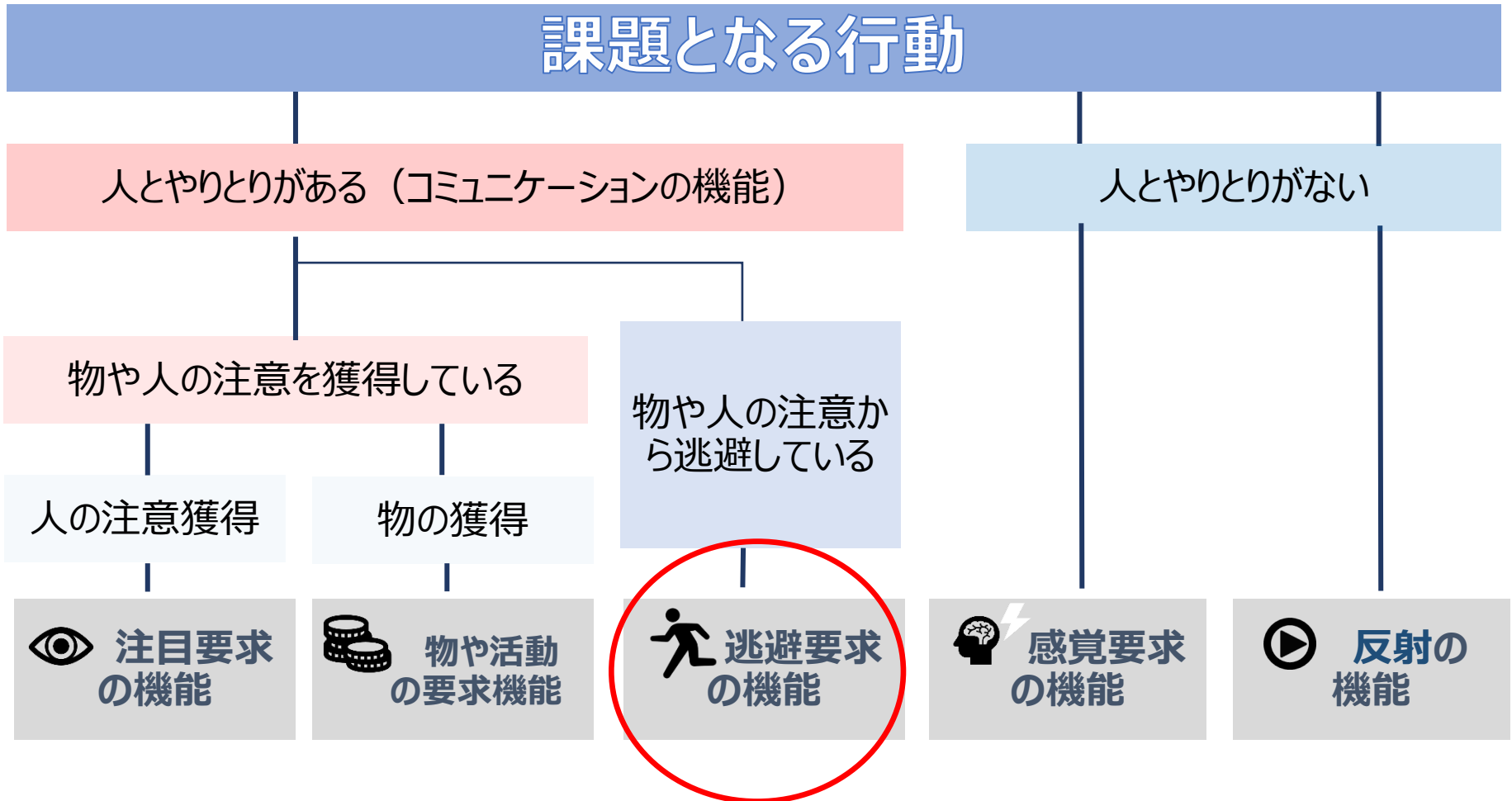
氏名： AHさん

ターゲットとした行動(B): 自立課題の時に自分の顔を叩く

| 日付 | 先行事象 (A) | 誰に・何に | 何をした (B) | 結果事象 (C) | 対応後の本人の様子・その他の気づき |
|----------|-----------------------------------|-------|--------------------|--------------------------------------|---|
| 〇月〇日 (月) | 自立課題をするように口頭で促した | 支援員K | 課題を壁に投げつけて、自分の顔を叩く | 支援者は様子を見るために声をかけをやめてしばらく様子を見た。 | 後から課題を投げたことを気にして、職員に投げたねーと言ってきている。10分ほどで自分から課題を始める。 |
| 〇月〇日 (土) | 自立課題を始めた時に、他の利用者の笑い声が聞こえた | 支援員K | 大声を上げながら、自分の顔を叩いた。 | 支援者が落ち着ける部屋に連れて行った。 | 課題を気にしてエリアに戻るとする様子が見られた。 |
| 〇月〇日 (金) | 自立課題をしている途中で、支援者が早くするように口頭で声掛けをした | 支援員Y | 自立課題を叩き壊し、自分の顔を叩く | 支援者は課題エリアから出て、しばらく見守る | お仕事はやくしようねと独り言を言い、表情が険しいことが続いた。新しい課題を置くと自分ではじめた。 |
| 〇月〇日 (火) | 作業エリアに入ったときに、自立課題をするように口頭で伝えた | 支援員P | 壁を叩いたあとに、自分の顔を叩く | 課題をやるかやらないか聞くと、ますます叩いたので、離れてしばらく見守る。 | しばらく苛々した様子が続いた。10分ほどで自分で課題を始める。 |

ターゲットとした行動の機能を推察する

行動問題の機能を推定するフローチャート



手順5. ストラテジーシートの作成

「ストラテジーシート」とは

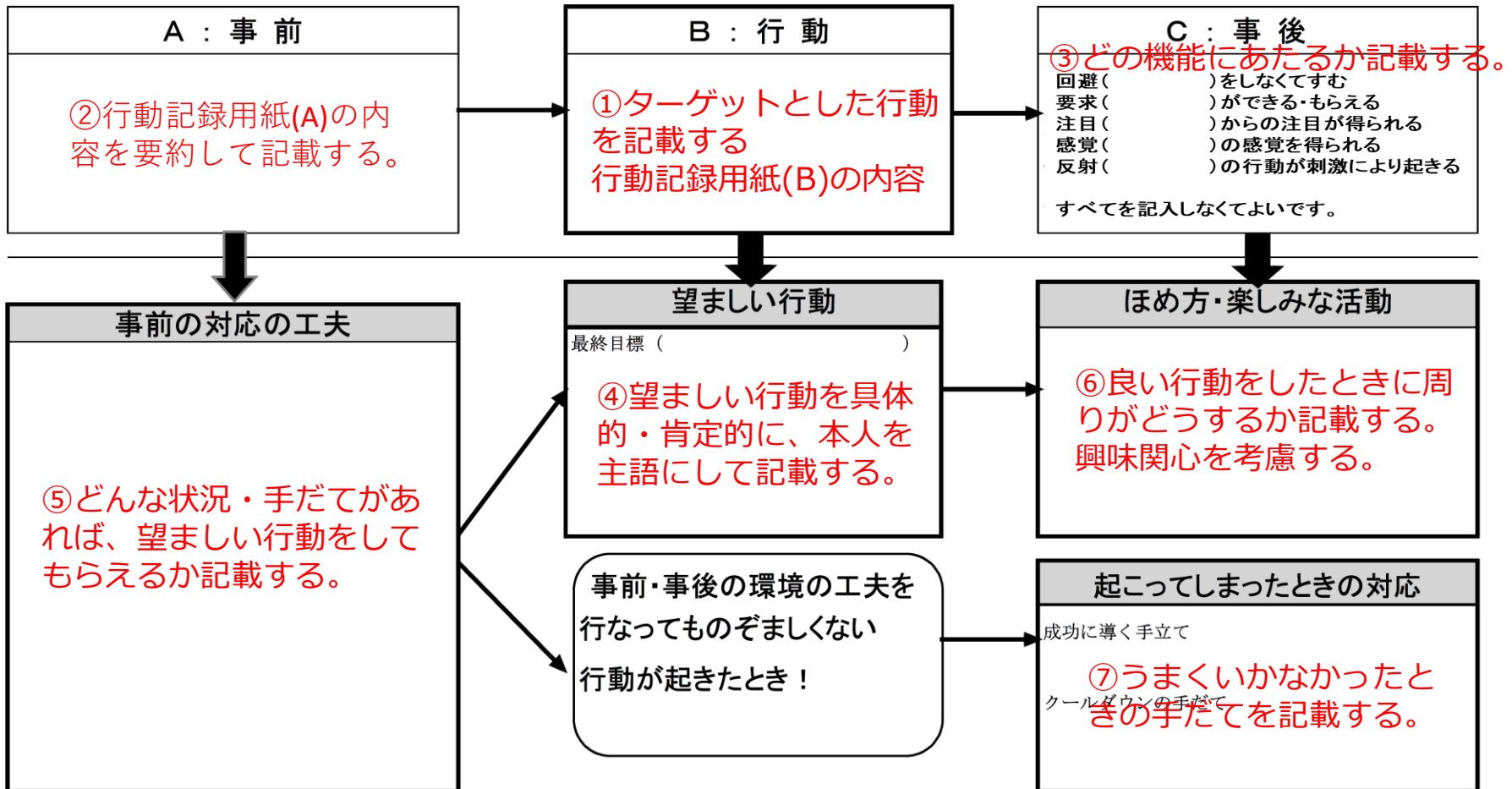
ストラテジー（Strategy）とは「戦略・目的達成のための方策・方法」の意味です。

ストラテジーシートは行動をもとに行動障害の背景を考え、対応策を考えるのに適しています。

ストラテジーシートは、行動への対応をチームで考え共通理解するときに活用できるフレームワークです。

ストラテジーシート の作成方法

ストラテジーシート ver. 3.0 【記入日 年 月 日】 【氏名 】



スキャッタープロットによる記録

<観察する行動>

①髪の毛を引っ張る

②突然触る

③いやがることを言う



強度行動障害支援アドバンス研修 の取り組みから

強度行動障害支援の実践を阻むもの

研修履修者の知識、技術の向上 = 成果ではない
学んだ事を活かす環境が大切だが阻むものが多い
アドバンス研修では、活かす環境を重視

- | | | |
|----------|---|----------------------|
| 共通理解の不足 | → | ミーティング時間の確保 |
| 専門性の不統一 | → | 動画によるミニ研修の実施 |
| 認識のずれ | → | 具体的な目標設定 |
| 解釈のずれ | → | 客観的な行動記録 |
| 記録の統一共有 | → | ソフト・アプリによる記録 |
| スーパービジョン | → | 研修リーダーからのネットによるアドバイス |

事業所内の共通理解と リーダーシップが職場環境を変える

□ガバナンスの具体化

□管理職の理解と応援

□仲間づくり

□情報共有システム

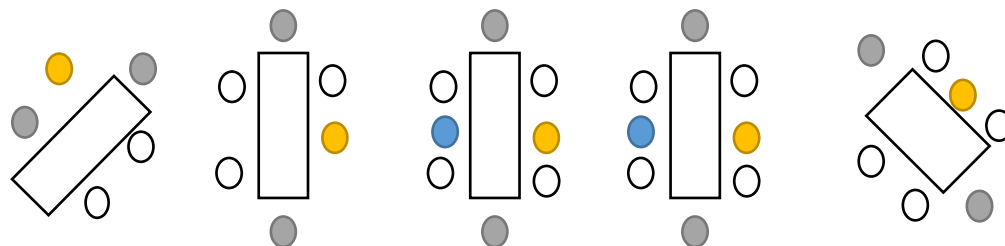
- 情報・支援を共有できないと「実行」が困難になる
- プログラムの作成と実行をマネジメントできるリーダーの養成が重要！
- 記録、支援計画立案、実施、評価のルーティン（PDCAサイクル）を回せる人

アドバンス研修の特徴

1. 連続5回の事例検討会
2. 参加者は年間30名位
3. 1グループ3名にグループリーダー、インストラクター配置
4. ICTを活用したスーパーバイズ、コンサルテーション
5. 研修のミニ動画を期間つきで公開し、事業所内での伝達研修に活用
6. グループリーダー、インストラクターは本研修の卒業生
7. 事業所の施設長の研修参加が必須条件

インストラクター
グループリーダー

講師

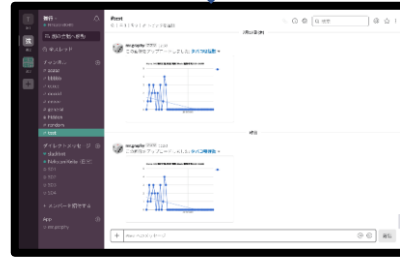


研修全体の情報提供



研修用 HP

グループリーダーからの アドバイス ミニ講義の提供



SNS

ネット環境があれば
パソコン・スマホ・タブレットで
使える

Google Form

s011tokyo 行動観察シート

入力者のニックネームを記入してください*

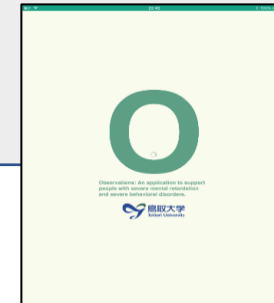
行動を具体的に記入してください*

行動が生じた日にちを選んでください*

行動が生じた時間を選んでください*

事業所での
行動記録

ネット環境なしで記録できる
アプリ
Observations



アプローチのポイント

① アセスメントの理解

- プロフィール(障害特性、コミュニケーションスキル、余暇スキル、行動の履歴)
- 行動上の問題に対するスクリーニングと全体把握のツール
ABC-J,BPI-S
- 機能的アセスメント (Functional Assessment) の理解

② 機能分析に基づくアプローチの理解

- 環境調整
- 問題とされる行動に対する代替行動の獲得支援

③ チームアプローチの理解と実践 + ICT活用

- 各事業所でのマネジメント、事例ミーティング、行動記録、それに基づいた実践と成果の共有を行えるようにする

強度行動障害アドバンス研修とは

- ① 各事業所において行動障害支援のマネジメントができるリーダーの養成が目的。

- ② 機能分析に基づくアプローチの理解
連続研修により「機能分析」を理解し、それに基づいた支援プログラムの計画・作成・実施・検証を学ぶ

- ③ チームアプローチの理解と実践 + ICT活用
各事業所でのマネジメント、事例ミーティング、行動記録に基づいた実践と成果の共有を行えるようにする

①リーダーの育成

- 東京の人口は約1400万人おり、それだけ強度行動障害に困っている人数も多い。
- アドバンス研修では地域の中で困ったときに相談できるスーパーバイザーの養成を目的としている
- スーパーバイザーに必要なのは、専門的な知識や技術だけではなく、その知識や技術をどのように使うのかをコーディネートできる力
- 施設運営上の課題対応や事業所内での会議の進め方等、一見、強度行動障害支援とは関係ないような知識の成熟も求められている

② チームアプローチ、ICT活用

- 研修時に各施設の事情等を考慮したマネジメント上のアドバイス
- 会議の進め方や「困った職員」への対応方法等、理想論ではなく、より現実的な課題に対する対応策をアドバイス
- 「記録のつけ方」ではなく「記録のつけさせ方」のアドバイス
- ICTを使用し、グループリーダーがオンタイムで記録にアクセスすることが可能で、タイムラグのないアドバイスが可能
- 研修時にアンケートを取るが、インターネットを活用することで即時に研修内で結果の共有が可能